

JIA-QA JIA-QA CENTER ネット

■おかげさまで、3冠獲得!! 1

ニュース&インフォメーション

■特集 ISO45001 2

ISO45001認証取得おめでとうございます 3

・ピジョンマニュファクチャリング茨城株式会社 4

・株式会社 スカイテック 5

・株式会社 栄伸建設工業 6

安全文化 7

■2020年度登録組織セミナー動画

YouTube限定公開のお知らせ 12

記事

■2021年「世界認定推進の日」 10

■JABマネジメントシステム シンポジウム資料が公開されました 10

■セミナー情報 13,14



おかげさまで、3冠獲得!!

JIA-QAセンターは、日本トレンドリサーチが行ったISO認証機関の調査において

| | | | |
|---|---------------------|--------------|---|
|  | ISO 認証機関 コストパフォーマンス | 第 1 位 |  |
| | ISO 認証機関 サポート満足度 | 第 1 位 | |
| | 安心・信頼のISO 認証機関 | 第 1 位 | |

の**3冠**を達成いたしました。



調査方法：インターネット調査
調査概要：2021年4月 サイトのイメージ調査
調査提供：日本トレンドリサーチ



調査方法：インターネット調査
調査概要：2021年4月 サイトのイメージ調査
調査提供：日本トレンドリサーチ



調査方法：インターネット調査
調査概要：2021年4月 サイトのイメージ調査
調査提供：日本トレンドリサーチ

JIA-QAセンターは「審査の信頼性」を社会的使命であると認識し、
これの向上のため厳格な審査を実践して参りました。
誠心誠意努めてきた結果を評価していただけたものと存じます。
これに驕ることなく、一同、精進してまいりますので
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

調査結果は日本トレンドリサーチ(運営会社：株式会社NEXER)のHP内で公開されています。

 **記事ページ** <https://trend-research.jp/7943/>

特集

ISO45001

国際
規格

労働安全衛生 マネジメントシステム

お知らせ

JIA-QAセンターは、2021年4月20日付けで、日本適合性認定協会(JAB)より、ISO45001認定通知書を受理しました。

拡大した
認定範囲

- OHSMS 28 建設
- OHSMS 34 エンジニアリング、研究開発

これまで国内では、ISO規格では無いことを理由に多くの組織がOHSAS18001の認証を取得しておらず、国内の認証件数はおよそ1,750事業所程度に止まっていました。一方海外に目を向けると、127か国以上で9万を超える組織が労働安全衛生マネジメントシステムの認証を取得していると言われています。

ISO化を機に、多くの組織がISO45001に取組み、また世界並の認証取得件数につながる事が期待されています。

本特集ではISO45001を採用した3つの組織を取り上げるとともに、ISO45001規格の特徴である「安全文化」について審査部長の本道が解説します。

組織インタビューを通じて、また規格の新たな側面に触れ、ISO45001の採用を少しでも前向きにご検討いただき、積極的な労働安全衛生マネジメントシステムの導入、取組みをお願いしたいと思います。

ISO45001

認証取得

おめでとうございます



労働安全衛生の分野では法規制はもとより、厚生労働省、中災防（JISHA）、建災防等が定めるガイドラインや規格、COHSMS認定等適合性評価制度も複数あり、ISO45001が発行されても採用の必要性を感じられないかもしれません。あるいは「事務系に事故はない」ということでマネジメントシステムは不要とお考えの組織もあるかもしれません。でも、労働災害は製造業や建設業での事故だけではなくありません。そして一昔前の労災といえばその多くが設備の不足や欠陥（不安全な状態）、作業者のミス（不安全な行動）が起因となり、対策も設備に事故防止装置を取り付けるなどハード面が中心でしたが、最近の災害の多くは“マネジメントシステム上の不備”、つまり見直されない手順書、ルールの無視、教育不足、管理不十分などが起因と、ソフト面に変化しています。

また近年は「業務上の疾病」が増えています。代表は座りすぎによる腰痛です。パソコンの使いすぎによる運動機能障害もあります。業務上のストレスや過重労働などに起因するうつ病などの精神障害もそうです。業務上疾病の労災件数は年々増加しています。

さらに環境に関連する疾病もあります。例

えば熱中症・熱関連死。最近の研究では6つの大陸の732カ所における「熱関連死（高い気温に関連した死）」のうち平均37%が気候変動に直接起因する可能性があると言われていています。日本で熱波死の統計は取られていませんが、日最高気温が30℃を超えるあたりから、熱中症による死亡が増えることは知られています。もう一つ、通勤や職場でのインフルエンザや新型コロナウイルス感染死。環境破壊が進んだことで森林の動物と人間が会ってしまい、結果として野生動物肉の消費量が増えるなどしてウイルスに感染しやすくなったと指摘されています。

近年増加傾向にある業務上の疾病はどの職場にも存在し、また気候変動など地球環境変化との関連も無視できないのではないのでしょうか。このような一見ISO規格とは無関係に見える業務上の疾病もISO45001を使って状況を整理、課題を抽出し目標を定め取り組むことで安心な職場への貢献が期待出来ます。

そしてISO45001の最大の特徴は「安全文化の促進を要求」している点です。安全衛生担当者は「安全文化」という全社共通の価値醸成のために、ぜひISO45001を使って自らの活躍の場を作っていただきたいと思います。



お話しを伺った方

代表取締役社長 **大村 勲** 様 (写真左)

Case 1

ピジョンマニファクチャリング茨城株式会社

【住 所】茨城県常陸太田市岡田町2068-1

【登録範囲】1. 不織布製品 (ウエットティッシュ、ドライワイパー) の設計・開発及び製造
2. 物流受託業務

【認証取得】・ISO9001品質マネジメントシステム
・ISO14001環境マネジメントシステム
・ISO45001労働安全衛生マネジメントシステム

同社はピジョン株式会社の100%子会社で、ピジョングループの定める「Pigeon Way」(心と行動の拠り所、すべての活動の基本となる考え方)を活動の拠り所として、この世界をもっと赤ちゃんにやさしい場所にするための商品を製造している会社です。主力商品は「ピジョンおしりナップ」。赤ちゃんのおしりを清潔にし、健やかな成長をお手伝いする商品です。

ISO45001については当初グループの方針として取り組みということですが、元々同社はさまざまなステークホルダーやピジョングループとの協働の中で「愛をかたちにすることを具現化」し、ブランド価値を高めてきました。「安全」「安心」「高品質」として、労働安全衛生の取組みそのものがはじめて、ということではありませんでした。

場内外美化運用、防災訓練をはじめ様々な活動が継続されている中、ISO45001を採用したことで変化した点がいくつかあると言います。

一つは、例えば安全衛生委員会では、目的が法律に基づくことであると明確になったことで活動に対する理解が促進され、活動内容が深まったといいます。ヒヤリハット活動では一部の社員だけの報告から、全社員の活動に変わり報告が増えたとのこと。職場に不安



ピジョンおしりナップ

全はないか、全員が感心を持って良く見るようになった、ということ。リスクアセスメン

トも全員でリスクを取り上げることで、社員全体の安全に対する意識が変わり、それらが会社の予算にも良い影響を与えるようになったそうです。

法令については、改めて確認することが出来たことで、例えば一昔前に提出した届け出がそのままになっていることを発見、再提出を促すなど、法律の改正に素早く対応できるようになったとのこと。情報はネット検索をはじめ、実際に行政に問合せ、指導を仰ぐなど、充実した情報の取得・更新が出来ているとのこと。

同社はISO9001、ISO14001、ISO45001の三つの認証を取得しています。安全衛生の取組は顧客満足の一環であり、ISO45001によってより重層的になったと言います。例えば「良品率の向上」と言った時に、良品率に注目するだけでなく、その中には廃棄物の削減、残業時間の削減、といった複数の意味をもった相乗効果が発揮出来ているとのこと。これらを会社の指示では無く、現場自ら考え

動けるようにしていくため、教育にはより力を入れ、手作りの教育資料が活躍しています。労働安全衛生の活動をさらに顧客価値向上につなげ、もっともっと世界中を赤ちゃんにやさしい場所にできるよう、ISO45001は役立てられていました。

ISOの仕組みを使って PM茨城の価値向上につなげる



ISO9001 (2004年 取得)
お客さまが望むものを提供し続ける

ISO14001 (2019年 取得)
そのために、環境を犠牲にしない地域の皆さんにご迷惑をかけない

ISO45001 (2020年 取得)
安全活動を徹底して、安心して仕事に集中できるようにする

顧客・環境・社員すべてに配慮し、
もっと世界を
赤ちゃんにやさしい場所にする



お話しを伺った方

代表取締役 **国本 雅樹** 様

Case 2

株式会社 スカイテック

【住 所】 東京都港区芝浦2丁目3-37

【登録範囲】 総合電設サービス（送電線工事・光通信工事・風力発電設備組立等）の施工及び太陽光発電設備・オール電化・省エネ関連電気設備の設計施工

【認証取得】 ・ISO9001品質マネジメントシステム

・ISO45001労働安全衛生マネジメントシステム

同社は送電線工事の会社です。高所での送電線建設・修繕工事・保守業務など、送電線工事の場面はテレビなどで見たことがある、という方も多いかと思います。その他に光通信線架設・接続工事、航空障害灯設置工事、風力発電設備組立工事・保守業務、家庭用・事業用太陽光発電設備の販売・設計・施工、オール電化・省エネ関連電気設備の設計・施工も行っています。

高所での作業は常に危険がつきまといます。些細なことがすぐに事故に繋がります。災害復旧工事も多いそうで、過酷な被災現場での作業は、さらに大きなリスクにさらされます。

ISO45001は、従業員が常に安心して働けるようにと、従前からのルールを明確にし、作業や工事などの手順書や基準類を作成・整備、安全で健全な労務管理の基礎となるよう取り組んだそうです。

取り組み後の変化の1つは、マニュアルが作成されたことによる効果です。非公式だっ

たことや暗黙知が明らかになり、そのことで法令順守が進み、ルールを守った作業がより一層浸透したそうです。

同社はISO9001も取得しています。QMSより安全衛生にフォーカスされることで働く人が、すべきことにより一層集中出来るようになった、といいます。教育内容も安全衛生に集中しますから、安全衛生に対してより意識が高まり、自分事化して考えて対応できるようになったことはQMSとの大きな違いだと言います。

またISOでは内部監査の要求事項がありますが、この内部監査の文化の醸成が非常に効果的だと言います。役職に関わらず質問することのできる監査は、今まで見えなかったお互いの仕事を知る機会となり、理解することにつながったと言います。そのことでコミュニケーションも今まで以上に良くなり、職場の風通しも一層良くなったとのこと。

対外的な効果について、直接はまだ見えな

いということですが、良い工事、良いサービスの提供は当たり前、その上で「無事故での納品が最大の成果物」という社長。無事故での納品が評判に結びつき、最終的に利益



代表 奥田 学 様

同社は、建造物の解体を行う会社です。建物全体を解体することになれば、室内だけでなく、そのレベルは様々です。工事では、建物を取り壊すことで重たいコンクリート（いわゆるガラ）や土など、大量の廃棄物が出ます。重機（大型ショベルカー）や人手でまとめて袋に詰め、重機を使ってダンプカーの荷台に積み込む作業はなかなかの重労働。ダンプカーの乗員も、処分場やリサイクルセンターでの廃棄物の搬出・搬入作業があり、荷台での荷ほどきなどは危険が伴います。

また、廃棄物の中にはアスベストが混ざっていることもあります。土埃なども含めて、空気中へ粉じんの飛散は大気汚染につながり、安全だけでなく、環境汚染、健康被害にも気を遣わなければなりません。とくに住民へ迷惑がかかることのないよう、日頃から丁寧な作業が必要だといいます。

安全衛生と環境汚染を念頭に、ISO45001とISO14001に取り組む会社ですが、ISO取得のメリットを次のように話しています。

ISOを共通の尺度とすることで、下請けの

の最大化に貢献するであろうということでした。

ISO45001は事故防止にとっても貢献している、ということでした。

Case 3

株式会社 栄伸建設工業

【住 所】 東京都足立区鹿浜5-21-18

【登録範囲】 建造物の解体工事

【認証取得】 ・ISO14001環境マネジメントシステム

・ISO45001労働安全衛生マネジメントシステム

お話しを伺った方 開発営業部 部長 阿部 幸裕 様

マネジメントが格段にしやすくなったとのこと。法規制上必要な書類を残すために、職人のみなさんに書類の記入をお願いするものの、取り合ってもらえないことも苦労が多かったようですが、ISOの尺度で説明することで理解を得られ、必要な書類の提出がスムーズに行われるようになったそうです。また仕事のルールが明確になったことで、特にコンプライアンス順守がしやすくなったとのことでした。

社会に対するPR効果として、特に顧客の認識が進み、公共工事については、新規参入など仕事を取りやすくなったとのことでした。働く人の認識も進み、例えばミーティングでは持ち回りで労働安全及び環境に関する発表をするそうですが、ミーティングの目的が明確になったことで、発表の内容が充実し労働安全衛生の意識がさらに高まったそうです。

ISO45001、14001の取組は、会社で働く人だけでなく、一緒に働く下請け、取引先にも浸透し、全体で良い結果を生み出していました。

特集 ISO45001

安全文化

Safety Culture

ISO45001「労働安全衛生マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引」の特徴的な要求事項である「安全文化」について紹介させていただきます。

ご存じのようにISO9001やISO14001には、文化の創造についての要求事項はありません。

JIA-QAセンター 審査部長 **本道 起由**

労働安全衛生の取組みに当たって、安全文化を創造することがとても大切であるということは広く知られています。ただ私は、これは日本特有のものであって、ISOは欧米から来たシステムチックな垢抜けたものなので、文化などといった精神論に近いようなものとは無縁だと思っていました。ところが2018年に新しく発行されたISO45001を見ると「安全文化を作れ」という要求事項がありました。正直これを見た時には驚きました。

安全文化というのはいつ誰が言い出したのでしょうか。インターネットで調べただけなので絶対正しいとは断言できませんが、国際原子力安全衛生諮問委員会が言い出したのが最初ようです。その定義は次のとおりです。

安全文化

「組織の安全の問題が、何ものにも勝る優先度を持ち、その重要度を組織および個人がしっかりと認識し、それを起点とした思考、行動を組織と個人が恒常的に、しかも自然に取ることのできる行動様式の体系である。」

これを噛み砕いてもう少し分かり易く言うと次のようになります。

安全文化とは

- 「行動の元になる価値観が組織内で共有できている」ということ。
- 何をするにも、何を考えるにも「安全第一」というスローガンが、言葉だけでなく本当の意味を持って、全ての行動／考えの根底にある。
- そしてそれは意識されずとも全員の身に付いているということ。

ところで私は労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)の審査員です。守秘義務がありますので、これに抵触しない範囲で審査での経験を紹介させていただきます。

審査をしていていつも感じていることがあります。それは「OHSMSに取り組んでおられる企業殿と、取り組んでいない企業殿で、安全衛生の管理レベルに明らかな違いがある」ということです。OHSMSに取り組んでいるから差があるのか、

OHSMSを導入しようと考えた時点で既に差があるのか、もしかしたら後者のような気もしますが、差があることは事実です。正直、OHSMSに取り組んでいない企業で働く社員さんを見て、気の毒に思うことがあります。

欧米では当たり前になっているようですが、日本ではまだOHSMSの認証取得は環境ISO (ISO14001) のように当たり前にはなっていません。それは他国に比べて日本の労働安全衛生管理は一步も二歩も先を行っているという自負があるからだだと思います。事実そうでしょう。しかし、日本の安全衛生管理は個人（社員）に頼っています。今まではそれでよかったのですが、今後は個人に頼った安全衛生管理では駄目かも知れません。

この記事を読んでいただいている方の中には、「当社ではここ何年も大きな事故は起こっていないから問題無い」と思われる方がおられると思います。しかし、ここ数年事故が起こっていなかったとしても、今後1回でも大きな事故が起きたら駄目なのです。事故が起こったときに、後悔しても後の祭りです。

皆さんは自転車に乗った母子が車にはねられて死亡した渋谷の事故のニュースを見て、通学中の小学生の列に車が突っ込んで子供が死亡したニュースを見てどう思われたでしょうか。被害者の家族の会見を見て、誰もがやるせない気持ちになったと思います。このような話をすると「当社は製造業でないから死亡事故はあり得ない」という声が聞こえてきそうです。本当にそうでしょうか。社有車の運転中の事故は労災ですし、通勤中や出張中の怪我もあります。そして管理すべきは安全だけではありません。

「労働災害は発生していませんか?」と聞くと、殆どの会社は「カッターナイフで手を切ったとか、躓いて転んだとかといったちょっとした怪我はあるが、大きな事故はここ数年起きていない。」という回答が返ってきます。そこで「メンタル不調で休んでお

られる方はいませんか?」と聞くと、どこの会社にも1人や2人はメンタル不調で長期休職中の方がおられます。腕の骨を折ったら2～3箇月もすれば職場復帰できますが、メンタル不調で休むと、早くても半年、一年以上職場復帰できないこともざらです。どちらが会社にとっての損失が大きいのでしょうか。

メンタル不調で会社に行けなくなった夫を見て奥さんや子供はどう思うか、会社に行けなくなった娘を見て親はどう思うか、家族の身になって考える必要があります。未だに本人に原因があるという風潮があるので、またセンシティブな問題なので、余り気にもかけず、その人の問題にして諦めてしまっていないでしょうか。会社は諦められても、当人やその家族はは大変な思いをして苦しんでいます。怪我とメンタル不調の扱いに温度差があるように感じています。

私がJIAに来る前に働いていたある会社は、今の基準ではブラックと言われるかも知れないような会社でした。ただその会社の名誉のために言いますが、当時としては普通とまでは言いませんが、それ程おかしなことをしていた訳ではないと思いますし、安全面については非常に厳しい会社で、今私がOHSMS審査員として審査ができているのも、その時に鍛えられたからだと感謝しています。

ところでその会社で工場勤めをしているときは、毎日夜遅くまで仕事をし、夜中や休日の呼び出しも頻繁にあり、勿論そのほぼ全部がサービス残業で、忙しいときは1箇月の内休んだのが半日だけという時もありました。幸い表向きは病気もせず乗り切りましたが、今になって考えると当時は精神が病んでいたようにも思います。既に家庭を持っていましたが、家庭を犠牲にして、お世辞にも質の高い生活が送れていたとは思いません。私の先輩や後輩で体を壊した人も少なからずいました。

今の経営者の方は皆とは言いませんが大なり小な

りこのような経験をされてきたのでは無いでしょうか。私もそうですが、「自分が乗り越えてきたのだから…」という気持ちがどこかにあることを心配します。

ところで安全の定義をご存じでしょうか。安全とは「許容不可能なリスクがないこと」です。許容可能なリスクとは「現在の社会の価値観に基づいて、与えられた状況下で、受け入れられるリスクのレベル」です。つまり、安全は不変ではありません。昔と今とでは違うということを理解しなければなりません。今よりも病気や怪我で死ぬ可能性の高かった私の親の世代と私とでは、健康で文化的な社会生活についての考え方は大きく違います。もちろん我々の子供世代の若者は、また違う考えを持っています。もしかしたら今の経営者の常識は現在では通用しな

いかも知れません。

話は変わりますが、少子高齢化が進む中、中小企業では優秀な人材の確保に苦勞しておられます。今の若者は我々の時代と違い、圧倒的な量の情報にアクセスできます。例えば製造業に少しでも3K職場やブラック企業といったようなイメージを持ったら、多くの情報を持ち、選択肢を持つ若者が製造業から離れて行くのは、ある意味不思議なことでも何でもないかも知れません。

労働安全衛生の管理は必要なコストです。安全を空気や水のようにただと考えるのは間違いです。皆さんの会社が本当に社員のことを第一に考えているか、次の質問に答えてみてください。

- 安全第一と言いながら、収益第一、品質第一、お客様第一になっていることはないでしょうか？
- 怪我をしたとき、怪我をした社員の不注意であると（心の中で）責めていませんか？
- メンタル不調で休職したとき、休職した社員の心が弱いからだと思っていませんか？
- 安全第一と言いながら、納期を守るよう暗黙のプレッシャーをかけていませんか？
- 不安全な行動が行われていることに薄々気づいていながら、見て見ぬふりをしていませんか？
- 改造すれば設備が安全になることを知りながら、お金がないからと言って放置していませんか？
- 守れもしない手順を押し付けて、怪我をしたときに、手順を守らなっただけが悪いと言っていませんか？

これらの質問に少しでも思い当たる点があったら、それは安全文化があるとは言えません。安全文化を創造するためには、手間もお金もかかって当然です。安全にコストをかけても事業収益が上がらなければ、会社が存続できず意味が無いということとは分かります。しかし、コストをかける姿勢を見せるか見せないかの違い、社員を大事にしているかいないかを目に見える形で示すか示さないかの違いは、それを社員は敏感に感じ取っています。社員を自分の家族のように大事にしている会社とそうでない会社とがあったら、社員もこれから社員になるのかと考えている人も、どちらを選ぶかは明らかです。

最近はテレビを見ているとSDGsが流行りです。ですから最初はSDGsの17の目標の中の「8働きがいも経済成長も」に絡めて「安全衛生の確保は企業として避けて通れない社会的責任です。」という趣旨の記事を書こうと思ったのですが、このような内容になってしまいました。当然のことながら企業の社会的責任のことも忘れないでいただけたらと思います。

！ お知らせ①

2021年「世界認定推進の日」

毎年6月9日は、世界認定推進の日 (World Accreditation Day) です。

これは、ILAC (国際試験所認定協力機構) 及び IAF (国際認定フォーラム) が、認定の重要性をより広く世界にアピールする取り組みとして制定しているものです。

今年は

Accreditation: Supporting the Implementation of the Sustainable Development Goals (SDGs)

「認定が支える持続可能な開発目標 (SDGs) の実践」

がテーマです。

世界認定推進の日 2021 は、国連の持続可能な開発目標の実践を支える認定の役割に着目しています。

今日、世界各地で気候変動による影響と推定される洪水や土砂崩れなどの災害が多く起こるようになりました。アフガンのアメリカ軍撤退で、タリバン支配下で女性や子供への人権侵害再発が懸念されています。災害や戦闘で住まいを奪われ、家族を失い、貧困の格差はますます広がるばかりです。

2030年までに貧困を終わらせ世界の社会・環境の発展させるためには、SDGs 目標達成に向けた行動のスピードを加速し、かつ規模を拡大することが重要です。

認定は、国境を越えた貿易、食品の安全性、健康と環境の保護、産業とインフラの開発など様々な分野の政策目標をサポートします。そして製品とサービスが指定された要件を満たしていることの実証に役立ちます。



ILAC 及び IAF 議長による共同声明、パンフレット等が作成されています。
以下 URL からアクセス出来ます。ぜひご覧ください。
<https://www.jab.or.jp/news/2021/060300.html>

！ お知らせ②

JAB マネジメントシステム シンポジウム資料が公開されました

JAB (日本適合制認定協会) は、マネジメントシステム (MS) 認定・認証を取り巻く状況や時代のニーズに即した新しい価値を広く社会及び認証取得組織に提供するため MS 研究会を設立し活動、シンポジウムで成果の発表が行われています。今年も資料の公開が開始されました。

研究会で議論された内容を知ることで組織のみなさまの今後の活動に役立てば幸いです。



以下の URL からアクセスできます。ぜひご覧下さい。
https://www.jab.or.jp/about/ms_symposium/archive.html

世界認定推進の日

認定が支える
持続可能な開発目標 (SDGs)
の実践

2021年6月9日



世界認定推進の日 2021年 ポスター

2020年度登録組織セミナー動画 YouTube 限定公開のお知らせ

2020年度登録組織セミナーはコロナ禍における対策として、会場での開催に加え会場の模様を録画し配信を行うこととしておりましたが、動画配信の準備が整わず対応が遅くなりました。

配信を心待ちにされていたお客さまにおかれましては、ご心配ご迷惑をおかけし誠に申し訳ございません。準備が整いましたので、ご案内申し上げます。

お手すきの時間にぜひ動画をご高覧いただき、お役立ていただけますと幸いです。

【動画視聴URL及び資料請求（申込フォーム）】

お手数でございますが動画視聴を希望される方は、次のURLまたはQRコードを使って、フォームよりご請求ください。同じフォームで、資料請求も行えます。

動画視聴URL及びテキスト請求フォーム

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/476f04a0716948>



(注1) お申込は統計をとり今後の参考にさせていただきますので、ご協力の程よろしく申し上げます。電話、FAXでの受付はいたしておりませんので悪しからずご了承のほどお願いいたします。

(注2) テキストは郵送による配布のみとなります。権利関係の都合上、電子データでの配布はいたしておりませんので悪しからずご了承の程申し上げます。

〈動画視聴、登録組織セミナーに関するお問合せ〉

JIA-QAセンター 営業統括グループ 担当：長谷川まで h.yasuko@jia-page.or.jp

参考資料 2020年度(2021年) 登録組織セミナー プログラム

【開催地・日付・時間】

| 開催地 | 開催日 | 定員 | 時間 | 会議室 |
|-------|-----|-----|-----------|------------|
| 2月24日 | 東京 | 12名 | JIA東京事業所 | B館 大会議室 |
| 3月 9日 | 名古屋 | 24名 | JIA名古屋事業所 | 大会議室 |
| 3月10日 | 大阪 | 12名 | JIA大阪事業所 | 3階 第1会議室 |
| 4月 2日 | 横浜 | 50名 | 産業貿易センター | B1F B102号室 |

講演① 日常管理におけるリスク管理の在り方／福丸 典芳 氏 有限会社福丸マネジメントテクノ 代表取締役

講演② リモート環境での効果的な内部監査／寺田 和正 氏 IMSコンサルティング株式会社 代表取締役

◆セミナー情報◆

ISO内部監査コース〔品質、環境、労安〕〔養成(2日間)、差分(1日間)]の各コース

内部監査の実務を習得するコースです。監査基準の理解はもとより、チェックリストの作成の仕方などの監査技法を、トレーニングを通じて体得します。これから内部監査業務に携わる方に最適のコースです。修了者には修了証書を発行いたしますので、内部監査員資格基準としてもご利用いただけます。

規格は、品質 (JIS Q 9001)、環境 (JIS Q 14001)、労働安全衛生 (JIS Q 45001) の3種類。

コースは、2日間の養成コースと、1日間(2日間コースの初日に合同)の差分コースとなります。

【通学コース概要】

| | |
|------------------|---|
| 対 象 | <p>【養成コース】 これから内部監査業務に携わる方、以前にコースを受講した方で再度学習したい方など、どなたでも可。</p> <p>【差分コース】 すでに監査員として活躍されている方、もしくは過去に養成コースを修了された方に限る。 (品質管理、環境管理、労働安全衛生のご担当者、内部監査の責任者、管理責任者、ISOの実務者、これから審査を受けられる方・・・など)</p> |
| 内 容 | 監査の概要、マネジメントシステム規格の解説(監査に必要な部分)、監査実務 (ISO19011準拠)、トレーニング3種、修了テスト |
| 料金に含まれるもの | 昼食、テキスト、合格者は修了証 |
| 特 典 | 副教材としてJIS規格を進呈 |
| 時 間 | 【1日目】 9:30~18:30、 【2日目】 9:30~17:00 (会場により変わることがあります) |
| 受講料 | <p>◇一般価格50,000円(税抜)</p> <p>◇JIA-QAセンター登録組織 年度(4月~翌3月)2名まで半額割引あり</p> |

【規格・開催地域・開催日程】

会場は、開催2週間前までには決まります。

※1日目は、差分コースとしても受け付けます。 ※最低催行人数は6名です。満たない場合中止となります。

| | | |
|-----------------------------|-----|---------------------------|
| ISO 9001 (品質) | 名古屋 | 2021年 10月 14日 (木)、15日 (金) |
| | 東 京 | 2021年 11月 11日 (木)、12日 (金) |
| | 大 阪 | 2022年 2月 16日 (水)、17日 (木) |
| | 東 京 | 2022年 3月 10日 (木)、11日 (金) |
| ISO 14001 (環境) | 大 阪 | 2021年 11月 25日 (木)、26日 (金) |
| | 東 京 | 2021年 12月 9日 (木)、10日 (金) |
| JIS Q 45001 (労働安全衛生) | 大 阪 | 2021年 10月 26日 (火)、27日 (水) |

内部監査員講習及び基礎・入門コースお問合せ方法

現在、内部監査員講習及び基礎コース、入門コースのお問合せが増えております。コロナ禍の今こそ、教育を充実させ力を蓄えよう、という企業様が多いようです。セミナーについてはWEBサイトに概要が掲載されております。いつでもご都合の良いときにご確認いただけますので、ぜひご利用いただけますと幸いです。またお問合せは、フォームの利用が便利です。

ISOセミナー 全般

https://www.jia-page.or.jp/seminar_information/iso/



(ISO9001、14001、45001)内部監査員養成講習

https://www.jia-page.or.jp/seminar_information/iso/9001_14001_45001/



基礎コース(規格の逐条解説)および入門コース

https://www.jia-page.or.jp/seminar_information/9001_14001_45001_others/



講習・セミナーお問合せは、下記の方法で承っております。ぜひご利用ください。

内部監査員養成講習のお問合せ・申込フォーム(講師派遣をご希望の場合もこのフォームをご利用ください)

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/549e0af560008>



基礎コース、入門コースのお問合せ・申込フォーム

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/1227ac57428180>



※IATF16949及びFSMSのセミナーについても、情報が更新されましたらWEBサイトに掲載されます。

■投稿募集のお知らせ(読者のみなさまの投稿をお待ちしております。)

1.我が社の認証取得事例

題名などを除いた本文を800文字以上1600文字以内でご投稿下さい。写真や図の添付も可能です。

2.表紙写真

ご自慢の季節の"風景写真"をご投稿下さい。

3.我が社の何でも自慢

我が社の商品自慢、我が社の社員自慢、我が社の行事自慢など、我が社の何でも自慢をご投稿ください。コンサルタント様などからの紹介投稿も受付いたします。(紹介投稿の場合、元ネタとなる企業に許可を取った上でご投稿をお願いします。)

※1.~3.ともに採用されますと粗品をプレゼントいたします。

※投稿文は編集の都合上、原文の趣旨を損なわない範囲で、書き替え、あるいは短縮することがありますのでご了承下さい。

※写真、イラスト、原稿は原則お返しいたしませんので、予めご了承下さい。

●応募方法

投稿内容はe-mail、fax、郵便で下記宛先までお送り下さい。

■お問い合わせ・連絡先

●本冊子へのご質問・ご要望などは、会社名、役職、氏名、連絡先電話番号を添えて下記宛先までお寄せ下さい。

●送り先の担当者様の変更などは、お早めに下記宛先までご連絡下さい。

宛先

〒107-0052 東京都港区赤坂1-4-10 JIAビル
TEL.03(5570)9561 FAX.03(5570)9566
e-mail h.yasuko@jia-page.or.jp
JIA-QAセンター営業統括グループ/長谷川まで

■編集後記

コロナ禍も2年目「いつ終わるのか」。収束には2種類あるといえます。一つは医療的収束、もう一つは社会的収束。「いつ終わるのか」という人々の発言は社会的な終息を指していると、ジョンズ・ホプキンス大学の医学史学者であるジェレミー・グリーンは指摘します。日本でも行動制限の緩和が議論されはじめました。社会的収束のほうが早いかもしれませんね。

では収束後の暮らしは、どうなるのでしょうか。花王の調査では多くが「衛生習慣、備蓄、キャッシュレス決済、在宅勤務」を継続したいと回答。米シカゴ大学の調査では在宅勤務経験者にオフィス復帰を求めた場合「5割は指示に従い4割は指示に従いつつも在宅可能な業務を探しはじめ、1割は会社を去る」と回答。これらの結果が示すことは、コロナ禍の生活は苦労や不便を感じる反面、在宅勤務経験者、とりわけ女性は通勤時間節約により家事子育て介護との両立という実際の利点を得た結果ではないか、ということのようです。在宅勤務については、雇用側の生産性低下の懸念から週5出勤に戻す動きも出ています。しかし在宅勤務だから生産性が低下するのではないと米ゴールドマン・サックスのパンデミック後の経済における生産性レポートは指摘します。「消費者行動はオンラインに変化するのだからリモートコンピューティングによるコスト削減、柔軟な労働力配置で生産性レベルはむしろ向上すると予想される」。在宅勤務はコロナ後も、働き方改革の一つとして支持されるでしょう。そして生産性が向上するか低下するかは、雇用側のIT採用・促進の意思と力量の問題なのかもしれませんね。

情報誌「JIA-QAねっと」 Vol.33

発行 JIA-QAセンター

一般財団法人 日本ガス機器検査協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-4-10 JIAビル
TEL.03(5570)9561(代) FAX.03(5570)9566
<http://www.jia-page.or.jp/>

●本誌記載の記事は、無断転載・複製・複写(コピー)を禁じます。



HACCP

認証事業開始

森林認証



PEFC-CoC

国際NGOのPEFC評議会が運営する世界最大の森林認証制度。

JIAは日本で最初のPEFC-CoC認証機関です。



SGEC

SGEC「緑の循環」認証会議が運営する国内向けの森林認証制度。

JIAはSGECのFM認証と、CoC認証の両方に対応します。

- ◆CoC認証：森林認証材の製造加工・流通を対象とした認証
- ◆FM認証：森林の管理・経営を対象とした認証

FSC®-CoC

国際NGOのFSCが運営する森林破壊の制御を目的とした森林認証制度。
JIAはFSC®-CoCの審査を行います。

JIA 森林認証

検索

木質バイオマス証明

事業者認定をお考えですか？

由来が証明された木質バイオマスは

再生可能エネルギー 電力全量固定価格買取制度 (FIT)

の買取対象となります！



間伐材由来？

その他の材？

一般の材？

販売する
木質バイオマスの
由来を証明したい！

JIAでは「どの認定団体にも属していない企業」に対して認定を行うことができます。

JIA バイオマス

検索

安全から地球環境までトータルソリューションの提供



マネジメントシステム認証機関 JIA-QA センター

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-4-10
Tel.03-5570-9561
<https://www.jia-page.or.jp/iso/>

- ISO 9001 (品質) ISO 14001 (環境)
- ISO 50001 (エネルギー)
- ISO 22000 FSSC 22000 JFS-C (食品安全)
- JIA-GMP HACCP認証
- ISO 9001+ARR (欧州型式認可に要求される自動車・構成部品の品質)
- IATF 16949 (自動車品質)
- ISO 45001 (労働安全衛生)
- 森林認証
- 木材トレーサビリティ証明
- 木質バイオマス証明の認定
- 東京都、埼玉県温室効果ガス排出量検証
- カーボンフットプリント(CFP)システム認証
- タイプIII環境ラベルEPD